

JICAの「スポーツと開発」に関する取り組み

～言葉や文化の違いを超えるスポーツの力～

青年海外協力隊事務局

事業推進・調整課

課長 小林龍太郎

専門参事 大山高行

すべての人々が、 スポーツを楽しめる 平和な世界に

性別や社会的な立場などの制約を受けず、
みんなが等しくスポーツを楽しめる
平和な社会を実現します。

スポーツは、言葉や文化の違いを超えて楽しめるボーダーレスなものであり、
人々の可能性を広げ、未来を拓く一歩にもつながります。

JICAは、誰もがスポーツを楽しめる環境づくりや、スポーツを通じた人材育成に取り組み、
多様性のある平和な社会の実現に貢献します。



2

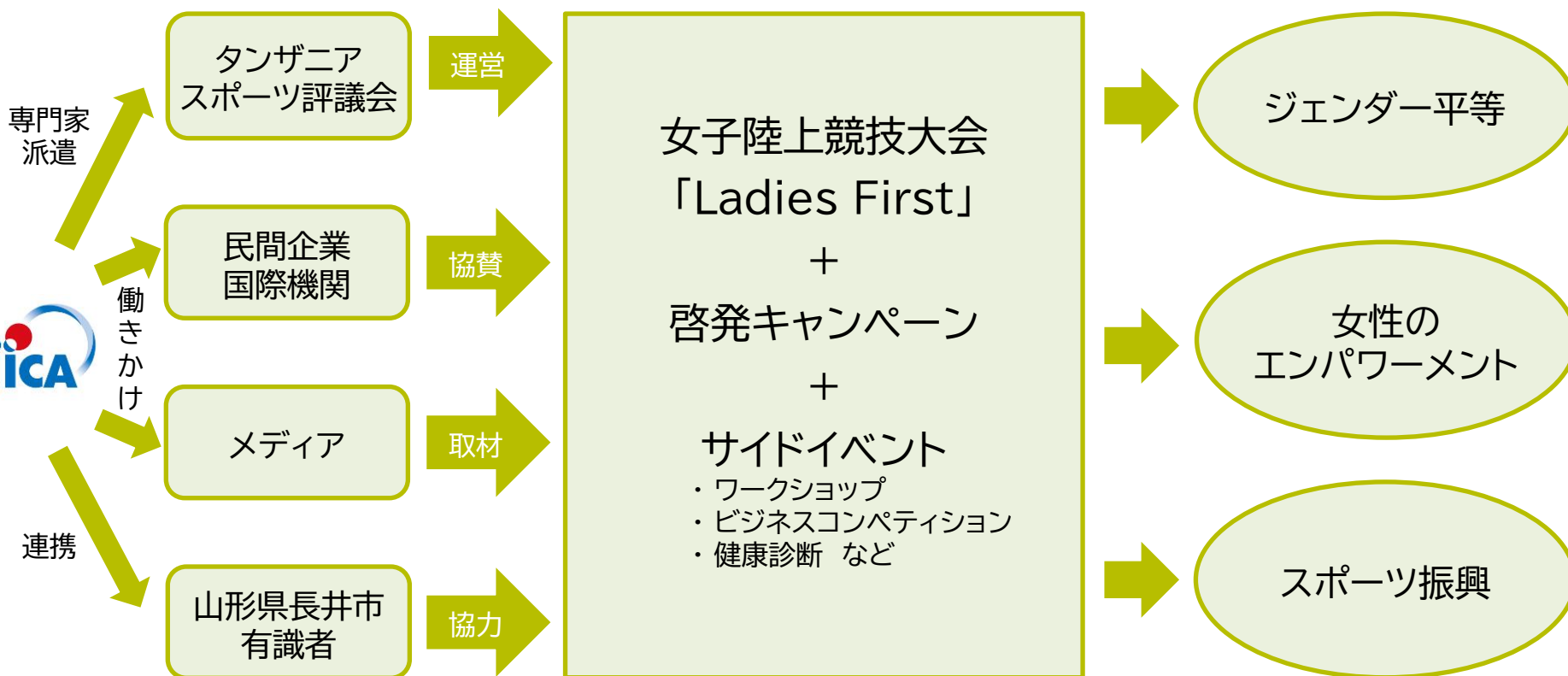
<動画投影（5分）>

タンザニア女子陸上競技会 “Ladies First”

【タンザニア・ジェンダー】第5回レディース・ファースト(2023)(Full:5分)



- ◆ 2017年にタンザニア初の女子陸上競技大会として開始。以来、計7回の開催実績。
- ◆ 直近は2025年11月29日、首都ダルエスサラームの国立競技場で開催。
- ◆ 参加選手2名がパリ2024出場。



事例紹介① 社会包摂と平和の促進

～女性の社会参画促進～

南スーダン「スポーツを通じた平和促進」

2016年1月～2025年3月



異なる出身地の女の子が仲良く応援する様子
(第7回大会)

背景/課題

過去の内戦や独立後の国内紛争の影響による民族間の緊張や不信感を抱える南スーダンでは、国民の和解・融和が喫緊の政策課題となっている。

目的

- スポーツを通じて国民間の多様性の尊重や民族・社会的融和、平和意識の醸成を促進し、紛争が再発しにくい社会の実現を後押しする。

活動内容

- 全国スポーツ大会「**国民結束の日**」(National Unity Day)を開催(男女サッカー、男女陸上、女子バレーボール競技等を実施する)
- ジュバ市内のスポーツクラブの活動支援や学校体育教師の能力強化支援
- 青年・スポーツ省のスポーツを通じた平和促進の取組みを2016年1月より支援

成果

- 大会後、参加選手や観客から**スポーツが民族融和と平和構築に果たす役割**についての賛同の声が相次ぎ、平和促進やコミュニティ融和、若者や女子の社会参画促進を目的としたスポーツ活動・イベント等を開催する国内団体が増加した。
- 選手は平和促進ワークショップ等にも参加。また、**異なる地域・部族の選手が10日間寝食を共にした**ことで、大会後も交流が続いている。
- **女性のスポーツ参加を通じたエンパワメントとジェンダー平等**に向け、第3回大会以降は女子バレーボール、第7回大会では女子サッカーが競技種目に追加された。また、南スーダン発祥の女性スポーツ「ボルボル」も披露された。
- 選手選考や準備プロセスにおける包摂性、公平性、透明性向上の意識を浸透させた。
- 「国民結束の日」サポーターとして、国内外からの資金協力や物資協力の輪が広がっている。

心身ともに健全な人材育成～教育～

カンボジア「中学校体育科教育指導書作成支援・普及プロジェクト」

2017年1月～
2020年9月



スヴァイリエン州バサック中学校マット運動の授業

背景/課題

カンボジアでは**ポルポト政権下で教育関係者が虐殺され、教育文書は残っていない。その影響から、現在でも中学校体育科教育の整備が遅れている。**そのような状況の中、2006年～2016年には小学校体育科教育に対する協力を行い、大きなインパクトを残した。

目的

- 中学校体育科教育において学習指導要領および指導書に基づき、新しい体育科教育を普及する基礎が確立される。
- 学校体育・スポーツ局(DPESS)と国立体育・スポーツ研究所(NIPES)が中学校体育科教育の中央機関としての体制を確立し、人材育成を行う。
- モデル州・モデル校の関係者が**新しい体育科教育を適切に実施できる能力を習得する。**

活動内容

- DPESSとNIPESへ本邦研修、組織図の作成等を実施
- 対象校でのワークショップやモニタリングを通してモデル校での体育授業を実施

成果

- 「態度・知識・技能・協調性」が学べる新しい体育科教育を普及する基礎が確立した。
- モデル州・モデル校の関係者が新しい体育科教育を適切に実施できる能力を習得した。
- 指導書作成、指導書活用のワークショップの開催、教育省への提言により、全国共通の体育授業プログラムが確立した。

事例紹介③ スポーツへのアクセス向上

～女性の社会参画促進、平和構築～

若者が紡ぐ、スポーツと友情の絆 —女子サッカー大会と日・ウガンダ交流会—

2025年9月4日～9月6日



左： 同サッカー大会会場のブースで、協力隊による日本の布ナプキンの紹介が行われました。

右上：女子サッカートーナメント「TICAD CUP」多くのチームが日本のサッカーチームから寄贈されたユニフォームを着用しています。



右下：マイナビ仙台、宮城県石巻市立桜坂高等学校、ウガンダの小学校によるオンライン交流会

パラオ野球 パシフィックミニゲームで初の金メダルを獲得

2025年7月



(写真)パシフィックミニゲーム2025の野球競技において、JICA海外協力隊員の新井良明隊員がコーチを務めるパラオ代表チームが見事金メダルに輝きました。

パリ2024オリパラ大会には、JICAが支援したアスリート(※)が、
合計で24名(15か国)参加しています。
(※海外協力隊員の指導を受けた経験、JICAが開催支援したスポーツ大会に出場経験のある選手)



(写真)インド代表としてパリ2024パラリンピック出場を勝ち取った、視覚障害者柔道男子のカピル・パーマー選手(左から3人目)と女子コキーク選手(同2人目)、そしてその二人からコーチとして絶大な信頼を得ているJICA海外協力隊の長尾宗馬さん(左端)。

相撲隊員(アルゼンチン)



(写真左) 道場で稽古をつけるJICA海外協力隊の今日和さん。指導生徒は相撲歴ゼロの初心者から20年超のベテランまで、およそ40人。女性も比較的多いのは日本との違い。

(写真上) デモンストレーション活動の一コマ。このイベントへの参加がきっかけで入門した人も。

「スポーツと開発」分野の全体像

スポーツの開発

1) スポーツへのアクセス向上

①ソフトインフラ

- ・政策／制度の整備
- ・関連団体の体制強化
- ・人材養成の仕組み作り
- ・大会など機会の整備

②ハードインフラ

- ・施設の整備
- ・器具／用具の整備

③普及・強化

- ・スポーツ指導
- ・指導者／審判養成
- ・大会等開催支援
- ・アスリート育成

スポーツを通じた開発

2) 心身ともに健全な人材育成

①健康増進

- ・幅広い世代の体力向上
- ・生活習慣病／高齢化対策

保健医療
グローバル・
アジェンダ

②教育

- ・学校体育の普及
- ・課外活動の促進

万人のための
質の高い教育
グローバル・
アジェンダ

3) 社会包摂と平和の促進

①社会参画促進

- ・障害者スポーツ推進
- ・女性スポーツ推進

社会保障・障害と開
発グローバル・アジ
エンダ

②平和構築

- ・交流の促進
- ・コミュニティ形成

平和構築
グローバル・
アジェンダ

まちづくり

- ・スマートシティ開発
- ・地域活性化

都市地域開発
グローバル・
アジェンダ

産業振興

- ・スポーツツーリズム推進
- ・スポーツビジネス推進

民間セクター開発
グローバル・
アジェンダ

パートナーとの協働

広範囲にわたるパートナーシップを生かし、 戦略的な支援を行います

訴求力の高いスポーツは多様なパートナーシップを結ぶことが可能です。
これまでも日本オリンピック委員会（JOC）や日本ラグビーフットボール協会（JRFU）、ジャパンラグビーリーグワン（JRLO）、日本サッカー協会（JFA）、日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）、日本女子プロサッカーリーグ（WEリーグ）、日本野球機構（NPB）、プロ野球球団、約10の大学など、さまざまな団体と戦略的に連携関係を構築しています。

国内スポーツ関連団体・組織との連携

“JICA×読売巨人軍” 野球を通じた「スポーツと開発」への取組



ニカラグアでは、2016年にJICA海外協力隊の野球隊員が立ち上げた女子野球を盛り上げるため、2024年1月に巨人軍の女子チームが現地を訪れ交流を深めました。JICAと巨人軍の連携は単なる野球振興にとどまらず、貧困層を含む女子選手への指導、多様性の理解促進、ジェンダー平等の推進等、スポーツを通じた社会への貢献を促進しています。画像はニカラグア代表チームと巨人軍女子チームの記念集合写真です。

1965年度から累計5,000以上の JICA海外協力隊 体育・スポーツ隊員を派遣

JICA海外協力隊のスポーツ隊員の派遣は1965年度に始まり、その数は累計5,000名を越え、内容も多岐にわたっています。老若男女を問わず、障害者も含めた幅広い人々を対象とし、代表レベルの選手への指導や初心者も参加する競技の普及活動、体育教員および指導者などの育成、運動会などのスポーツイベントの企画、ラジオ体操などの運動プログラムの提供など、現地に根付いた活動を行い、スポーツの環境づくりに取り組んでいます。

パリ2024オリンピック・パラリンピック大会では、隊員が指導した12名がオリンピックに、8名がパラリンピックに出場するなどトップアスリートの強化にも成果を残しています。



2021年～23年、インド・ラグビーフットボール連盟のコーチとして現地で普及と強化を支援している岩水耀平隊員。

体育・スポーツ隊員派遣実績

■1965年～:90ヶ国にのべ **5,195**名(2026年3月末時点)

■体育+**28**競技(職種)(派遣数順の実績は以下の通り)

職種	派遣数	職種	派遣数	職種	派遣数
体育	1,609	剣道	140	新体操	13
野球	786	空手道	121	ウェイトリフティング	12
柔道	574	バスケットボール	105	アーティスティックスイミング	9
バレーボール	317	ラグビー	104	水球	4
水泳	243	合気道	76	自転車競技	3
サッカー	216	バドミントン	67	スキー	3
卓球	181	テニス	51	相撲	3
体操競技	169	ハンドボール	36	アーチェリー	2
陸上競技	160	レスリング	24	フェンシング	1
ソフトボール	149	フィジカルアクティビティ	17	総計	5,195

体育・スポーツ隊員派遣実績(地域別)

欧州地域

- 派遣実施国6カ国
- JICA海外協力隊派遣人数
150人



中東地域

- 派遣実施国6カ国
- JICA海外協力隊派遣人数
476人

アジア地域

- 派遣実施国22カ国
- JICA海外協力隊派遣人数
1,584人

中南米地域

- 派遣実施国23カ国
- JICA海外協力隊派遣人数
1,743人

アフリカ地域

- 派遣実施国23カ国
- JICA海外協力隊派遣人数
959人

大洋州地域

- 派遣実施国10カ国
- JICA海外協力隊派遣人数
283人

総計5,195人

「スポーツと開発」概観

①スポーツを楽しむ機会の拡充

②心身ともに健全な人材の育成

③社会包摂と平和の促進

全世界(1965年～)
JICA海外協力隊(体育・スポーツ)
51カ国に20職種で161名を派遣中

全世界(2024年～)
課題別研修
「スポーツ行政/スポーツ振興」

南スーダン
(2019年～2023年)
スポーツを通じた
平和促進プロジェクト

ラオス(2022年～)
国別研修
「スタジアム運営維持管理」

ベトナム(2022年～)
「こけないからだ体操」
を通じた介護予防事業の支援

ボリビア
(2022年～)
スポGOMI大会
「DEPORSURA」

ペルー(2022年～)
障害児スポーツ指導力強化
および普及促進プロジェクト

ウガンダ
(2022年～)
女子サッカー大会
「TICAD CUP」

タンザニア(2017年～)
女子陸上競技会「Ladies First」
個別専門家「スポーツと開発」

カンボジア(2017年～2020年)
中学校体育科教育指導書作成支援・
普及プロジェクト